

第5学年郷土学実践事例

単元名

米作りをしよう

単元目標

米作りの体験を通して、地域の主産業である米作りへの関心を深める。

単元について

書籍やインターネットを使って、知識の獲得はできるがそれ以上の深まりは無理がある。この一連の稲作体験を通して、人々の知恵や苦勞を学び、収穫の喜びを味わせたい。また、自然の恵みを感じ、自然環境保全の意識を高めていきたい。

単元計画

- ① 田植えを体験する
- ② 稲刈りを体験する
- ③ 脱穀を体験する。
- ④ 注連縄作り（藁の活用）を体験する。

単元の流れ

週	学習内容	学習活動	教師の支援・児童の様子
		★学校支援ボランティアの方々に支援・指導をうける。	
	5月中旬 田植え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枠回し ・ 田植え ・ 肥料蒔き 	 <p>学校田でうるち米の苗を植える。支援ボランティアのおじいさんおばあさんに苗の持ち方、植え方、足の入れ方抜き方などを教えていただく。農作業の勞の厳しさを体感する。</p>
			<p>総合学習 【安全な米・おいしい米を作るために】へ発展</p>
	10月上旬 稲刈り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲刈り ・ はさ掛け 	 <p>稲刈りを行い、わらで稲を束ねる。束ねた稲は、はさ掛けする。束ねる作業を行うと、どうしても締め方がゆるくなってしまい、難しさを知る。おじいさんやおばあさんの技を学ぶ。</p>
			
	10月中旬 脱穀	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千歯こき ・ 足踏み脱穀機 ・ とうみ通し 	<p>手作業での脱穀を通して、昔の人の知恵や、機械での作業の効率性に気づく。</p>
			<p>総合学習 【お米博士になろう】へ発展</p>
	12月下旬 注連縄作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注連縄の願い ・ 注連製作 	<p>稲・麦・粟・豆・黍（または稗）の五穀豊穰の願いを知る。藁をない、紙垂を差し込み・・・と、昔の人の技を学びながら製作に没頭。1年を通じた稲作を振り返り、米の収穫を喜ぶ。</p>
			

子どもの変容・指導の成果

極力昔の稲作方法を体験させようと、学校支援ボランティアの方々に、多くの諸準備や丁寧な指導をしていただいた。田植え・稲刈り・はさ掛け・脱穀と、本物に出会うことは、子どもたちを本気にさせる。子どもたちは、それぞれの体験に真剣に取り組みながら、農作業の勞に触れ、折々で見られる生活の知恵を学び取ることができた。今まで目に留めなかったわずかな稲穂も大切に拾って脱穀する子どもたちの様子からも、一連の体験を通じた学びの姿がうかがえた。また、水の量に密接に関わる稲作を通して、環境保全に対する学びもできた。山から琵琶湖へ流れる美しい恵みの水を大切にしていかなければならないという意識高めることができた。

課題

ボランティアの方々の支援なければ成り立たない体験であるが、子どもたちがより主体的に稲作に関わるような取り組みの工夫に努める必要がある。

外部講師・地域連携

学校支援ボランティアの方々
祖父母の協力者の方々